

第2章 基本理念と将来像

1 まちづくりの基本理念

本市を取り巻く様々な動向やまちづくりの課題を踏まえ、都市計画マスタープランによるまちづくりを推進するにあたっての基本的な考え方を「まちづくりの基本理念」として示します。

(1) 暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくり

将来にわたり市民が安心して暮らしていくためには、災害等に対するハード・ソフト両面からの多様な備えや、様々な都市活動を支えるインフラ施設の整備及びその機能維持が必要不可欠です。また、地球温暖化やヒートアイランド現象^{*24}への対応などの環境を基盤とした持続可能なまちづくりについても推進する必要があります。

今後さらに人口減少や少子高齢化が進行する中、歩いて暮らせるまちづくりなど市民の多様なライフスタイルを支える環境づくりも求められています。

こうした中、市民の定住意向は現状で高い傾向にありますが、引き続き市民生活を支える取組を進め、これまで以上に、住みたい、住み続けたいと思われる、暮らしに安心と快適性をもたらす定住のまちづくりをめざします。



円山町

(2) 誇りと愛着の持てる活力あるまちづくり

本市は、その市街地が形成された経過などから、個性豊かな地域によって構成されており、それぞれの地域特性を生かしたまちづくりを進めていく必要があります。

また、本市は「住む」、「働く」、「学ぶ」、「健やか」、「楽しむ」といった多様な都市機能が集積する複合型都市であり、このような特性を生かし、本市の都市魅力をさらに向上させるため、都市機能の充実や良好な市街地環境の形成が求められています。

こうした中、市民、事業者、専門家等及び行政の相互の協働によるまちづくりの推進や、市全体の活力向上に向けた様々な都市機能の誘導など、市全体及び各地域の特性を生かす視点から、誇りと愛着の持てる活力あるまちづくりをめざします。



江坂町一丁目

*24 ヒートアイランド現象

都市の中心部の気温が周辺部に比べて島状に高くなる現象。主な原因として、人工排熱の増加（建物や工場、自動車などの排熱）、地表面被覆の人工化（緑地の減少とアスファルトやコンクリート面などの拡大）、都市形態の高密度化（密集した建物による風通しの阻害や天空率の低下）の3つが挙げられる。

2 都市空間の将来像

都市計画マスタープランによるまちづくりの長期的な目標として、本市のめざすべき「都市空間の将来像」を示します。

本市は、様々な市街地形成の経過や地形的条件をもつ個性豊かな地域で構成されており、その大部分を占める住宅地を中心とする市街地とともに、商業・業務、産業、文化・スポーツ・レクリエーション、学術・研究、健康・医療など、多様な都市機能が集積する特徴のある市街地をあわせ持っています。

このような、それぞれの地域が持つ特性やポテンシャルを踏まえながら、様々な市民ニーズに対応できる魅力ある都市空間の形成をめざします。

(1) 地域ごとの特徴ある拠点市街地の形成

鉄道駅周辺の市街地は地域の玄関口であり、都市全体の中心的な機能や地域の生活を支える様々な機能が集積しています。また、広域的な文化・スポーツ・レクリエーション機能が集積している市街地もあります。

このような市街地を拠点市街地として位置づけ、地域ごとの特性に応じた都市機能の集積を図り、拠点にふさわしい市街地の形成をめざします。

商業・業務などの中心的な都市機能が集積する江坂駅周辺及び JR 吹田駅周辺、公共施設が集積する阪急吹田駅周辺、医療機関と医療関連企業などが集積した医療クラスターの形成をめざしている岸辺駅周辺、広域的な文化・スポーツ・レクリエーション機能が集積する万博記念公園周辺を都市拠点^{*25}として、また地域の中心となるべきその他の鉄道駅周辺を地域拠点と位置づけ、その機能の充実をめざします。(詳細は第3章「8 拠点市街地のまちづくり方針」参照)

都市拠点	○JR 吹田駅周辺 ○阪急吹田駅周辺 ○江坂駅周辺 ○岸辺駅周辺 ○万博記念公園周辺
地域拠点	○都市拠点以外の鉄道駅周辺



JR 吹田駅 (朝日町)

*25 都市拠点

商業、業務をはじめとする様々な都市機能が集積し、市民や企業の活動が活発に展開される場。

(2) 都市間・拠点市街地間のネットワークの形成

都市活動は拠点市街地を中心に展開されますが、これらの拠点間を結んで人、物、情報が互いに交流することで、活動はより活発化していきます。

そのため、大阪都心部や北大阪地域、さらには阪神地域・京阪地域など周辺都市との結びつきを強めるとともに、拠点市街地間の連携を図るなど、それぞれが持つ都市機能がより高度に発揮されるよう、広域的なネットワークの形成をめざします。

このようなネットワークのうち、本市を通過する大阪都市圏の基幹的な軸線を広域軸として、また市域における地域間の軸線を地域軸として位置づけ、それぞれの機能の充実にめざします。



都市計画道路 南千里岸部線

<p>広域軸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪市の南北都市軸の延長として、大阪市都心部から新大阪、江坂を経て千里中央に至る軸線 (御堂筋線(国道423号)、地下鉄御堂筋線・北大阪急行電鉄) ○大阪市周辺部の都市を環状に結ぶ軸線 (大阪中央環状線、大阪モノレール) ○大阪市外縁部を環状に結び、市域南部の拠点市街地間を連携する軸線 (豊中吹田線・大阪高槻京都線、おおさか東線) ○大阪、京都間を結ぶ軸線 (十三高槻線、大阪高槻京都線、JR東海道本線)
<p>地域軸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市域中央部において地域拠点を連携する南北方向の軸線 (佐井寺片山高浜線、千里中央線、箕面山田線、万博公園南千里線、阪急千里線) ○市域中央部において広域軸を補完・連携する東西方向の軸線 (豊中岸部線、南千里岸部線)

(3) 人と自然の共生空間の形成

本市は、ほぼ全域が市街化されているものの、安威川や神崎川などの河川空間には貴重な自然環境が残っており、千里丘陵南端部の斜面緑地のほか、各所に竹林やため池も残っています。また、計画的に整備された大規模な公園や緑地が豊かなみどりとして育っています。

このような市街地内にある自然環境は、生物多様性の保全、良好な環境の確保、レクリエーション、潤いのある景観形成、防災などの様々な面から重要な役割を担っていることから、その規模と連続性を確保するなど、人と自然の共生空間の形成をめざします。



味舌水路遊歩道(南高浜町)

都市空間の将来像図



第2次みどりの
基本計画より